

## ご 祝 辞

日本歯科医師連盟 会長

高 橋 英 登



このたび、東京都歯科医師連盟が創立70周年を迎えられ、心からお慶びを申し上げます。

昭和26年発足より爾来70年の長きにわたり、東京都における国民歯科医療の向上、充実に大きく寄与され、歯科医業経営基盤の安定、継続にご尽力なされ、東京都歯科医師会と共に歯科界発展に貢献されてこられました。今日の成果は歴代の会長をはじめ役員ならびに会員各位のご理解ご努力によるものと、深く敬意を表する次第であります。

昨年、2020年より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）という未曾有の激震に世界中の人々が見舞われ、わが国においても国民は新しい生活様式を求められており、歯科界においても、歯科受診も著しく抑制させ、過大な損失を受けた歯科医療機関の経営はいまだ厳しい現状にさらされております。しかしながら我々歯科界は、以前よりスタンダードプリコーションの理念のもと、感染予防対策に取り組んでおり、その結果、現時点では歯科医療機関での大規模な発生はありません。

我が国が世界で有数に感染者数・死亡者数も少なく抑制できているファクターのひとつに、世界に冠たる「国民皆保険制度」の存在があることは疑う余地がありません。諸外国に比して日本は「医療が国民にとって身近である」そして、それ故、「医療を国民がためらうことなく享受できる」すばらしい国であるといえます。

未知の感染症に対し侮ることは慎まねばなりません。我が国の社会保障の根幹である国民皆保険を支えている医療職に従事するすべての者の叡智を結集して、このコロナ禍を乗り切り、平和で安寧な日々を取り戻し、安心して歯科医療を受けられるように傾注する所存です。

この激動する社会情勢の中でも懸命に都民のため歯科医療を守っておられる東京都歯科医師連盟会員の先生方に心より感謝申し上げますと共に、創立70周年を契機として貴連盟の今後ますますのご発展と会員各位のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

## ご 祝 辞

公益社団法人 東京都歯科医師会 会長

山 崎 一 男



このたび、東京都歯科医師連盟創立70周年を迎えられますことを東京都歯科医師会を代表いたしまして、心よりお慶び申し上げます。

また常日頃より、東京都歯科医師会の会務運営にあたりまして、歴代会長をはじめ、役員の方、会員の先生方には特段のご支援とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

東京都歯科医師連盟は昭和26年に発足され、戦後の多難な時代を乗り越え、創立以来70年の長きにわたり、都民の健康増進に寄与すべく共に活動して参りました。特に、関係団体と連携した政治活動や行政への働きかけについては、「都民への良質な歯科医療の提供」という目的意識のもと熱意をもって取り組み、歯科界発展のために尽力してきたことは衆知の事実であります。予算や各事業の状況に配慮しながらの活動は非常に困難を伴うものであったと思いますが、数々の難問題と向き合い、スピード感と細やかさを持って常に最善を尽くしてこられました。現在の東京都歯科医師会が在ることも、そして貴連盟の創立70周年を共に祝えることも、会員の先生方の献身的なご努力の賜物であると感服しております。そして私たち歯科医師の医業経営を守るため、地域住民をはじめ多くの人々の声に耳を傾け、地道な分析と多方面への積極的な提案を続けてこられたことに、深く敬意を表します。

現在、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響も含め、歯科界を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。コロナ禍での感染対策やwebを介した遠隔医療の拡充など、私たち歯科医師は新たな歯科医療の在り方を模索していかなければならない変革期にあり、今後ますます、行政との協力が重要となります。このような状況において貴連盟の存在は極めて重要であり、医療制度への陳情、要望の実現は貴連盟無くしては望めません。そのためにも、貴連盟と東京都歯科医師会の結束をより一層強化し、今般のような災禍の中であっても都民が安心して歯科医療を受けられるよう努めていかねばならないと強く感じております。

引き続き、都民が生き生きとした豊かな生活を営むための医療環境づくりを目指し、全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、今後もなお一層のお力添えを切に願います。

結びに、東京都歯科医師連盟の今後ますますのご発展と、会員の先生方のご多幸を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

### 訃報

山崎一男先生におかれましては令和3年2月11日にご逝去されました。  
ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

## ご 祝 辞

公益社団法人 東京都学校歯科医会 会長

末 高 英 世



このたび「東京都歯科医師連盟創立70周年記念誌」が発刊されるにあたり、一言お祝いを申し上げます。節目となる創立70周年、誠におめでとうございます。

東京都学校歯科医会は、常日頃より東京都歯科医師連盟には大変お世話になっておりますことに感謝申し上げます次第です。私ども東京都学校歯科医会は、日本の未来を担う子供たちが心身ともに健全に発育できるよう、学校保健をとおして教育等を行う組織であります。この組織を運営している一人一人の会員は、東京都内の保育所、こども園、幼稚園、小・中・高等学校および特別支援学校に勤務する学校歯科医で構成され、学校歯科健康診断をはじめ、幼少期における他律から自律に向けた大切な時期の子供たちに健康観を育てる保健教育等も実施しています。しかし、大学においては医科の健康診断は義務化されていても歯科は義務化されておらず、ライフステージの途中が空洞化した状態となり、その間に口腔の健康が悪化する懸念などさまざまな問題を抱えております。

これらは全て学校教育関連の法令でしばられているため、その解決には法改正などの政治的な決着がどうしても必要となります。そのため東京都歯科医師連盟の先生方とは、常に情報の共有をさせていただいているところです。特に、東京尚歯会にはオブザーバーで参加させていただき、国会議員の皆様にも学校歯科の現状を発信できる良い機会となっております。

また、近年の金属価格の急騰、医科と歯科の診察報酬の格差、新型コロナウイルス感染症拡大などにより歯科医院経営が悪化している中であっても、多くの診療時間を割いて学校保健活動に従事している先生方には頭が下がる思いです。これらの解決に向けて積極的に取り組まれている東京都歯科医師連盟の先生方にも敬服しているところであります。今後も東京都歯科医師連盟が発展されることによって、東京都歯科医師会や東京都学校歯科医会も発展していくものと確信しております。

結びになりますが、東京都歯科医師連盟のますますの繁栄と会員の先生方のご健勝を祈念し、お祝いの言葉に代えさせていただきます。

## ご 祝 辞

自由民主党東京都支部連合会会長 衆議院議員（東京13区）

鴨 下 一 郎



東京都歯科医師連盟が創立70周年を迎えられること、心よりお慶び申し上げます。

また、今日まで70年の永きにわたり、貴連盟ならびに大越壽和会長、会員の皆様のご努力により、東京都における歯科保健医療の環境づくりに多大な貢献を果たしてこられたことに敬意を表します。

近年は、国民が健康で質の高い生活を営む上で、歯と口腔の機能は重要な役割を担っていることが指摘されており、健康長寿・生涯現役の社会を実現するためには、健全な食生活の基礎となる口腔機能の維持・増進を図ることが重要です。

80歳になっても20本以上の歯を保つ「8020運動」が生涯を通じた歯の健康づくり運動として、平成元年から推進されており、全国各地で取り組まれています。我が国における歯・口腔の健康状態は、むし歯の減少や8020達成者の増加に表されているように着実に向上してきており、直近の歯科疾患実態調査においては、「80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合の増加」の達成率が50%を超えたと聞いております。これは、皆様方のためまぬ活動・ご努力の成果のあらわれであると考えており、深く敬意を表する次第であります。

また、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図る上で、全身の健康にもつながる口腔の健康の重要性が指摘されています。令和2年7月17日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2020」や、「成長戦略フォローアップ」においても、口腔の健康と全身の健康に着目し、生涯を通じた歯科健診等の歯科口腔保健の充実が盛り込まれており、現在、厚生労働省において、効果的な歯科健診の実施方法等の検証や、自治体における歯科口腔保健の取組みへの支援等が行われていると承知しております。

新型コロナウイルスの感染拡大下においても、健康な生活をおくるためには、口腔の健康管理は重要であると認識しており、地域の歯科医療関係者の皆様方におかれては、院内感染防止対策に取り組みつつ、歯科医療提供体制を維持していただくことが必要であると考えています。

こうした地域活動への貢献を含め、皆様方が進められる歯科保健医療活動に大きな期待を寄せるとともに、私としても、歯科界の発展に尽力してまいりたい所存です。

最後に、貴連盟のますますの御発展と会員ならびに関係者の皆様方の御活躍を心より御期待申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

## ご 祝 辞

東京尚歯会会長、国務大臣、衆議院議員（東京25区）

井 上 信 治



東京都歯科医師連盟創立70周年、おめでとうございます。大越壽和会長をはじめ歴代役員・会員の皆さまが、長きにわたり歯科医療の向上と都民の健康維持に貢献されてきたことに敬意を表します。私の地元、西多摩と昭島においても折に触れて歯科医師の先生方と意見交換を行う等の連携をさせていただいており、感謝申し上げます。

昨年から世界は新型コロナウイルス感染症の脅威と対峙していますが、歯科医師の先生方には最大限の感染症対策に取り組み、歯科治療を通じた感染のリスクを非常に低く抑えていただいています。一方で、それらの対策に伴う負担の増加や受診者の減少などによって、経営状況が悪化している歯科医療機関も多いと伺っており、憂慮しています。私たち東京都選出の中堅・若手衆議院議員は、「東京尚歯会」として、歯科医師の先生方の応援団となるべく、今正にこの問題にも取り組んでいます。適切な口腔ケアは新型コロナウイルス感染症の予防にも資するものです。歯科医療機関をより一層支援し、歯科医師の先生方に十分に役割を発揮していただくことにより、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い収束を実現してまいります。

高齢化が進展する我が国にあっては、健康寿命を延ばし、国民誰もがより長く元気に活躍できる社会を実現していくことが重要です。私は健康・医療戦略担当大臣として、この世界に冠たる「健康長寿社会」の実現を目指しています。口腔の健康は、栄養摂取だけでなく食の喜びや人と人との繋がりにも大きく関わるものです。貴連盟からかねてご要望いただいているオーラルフレイル対策や8020運動の推進、また実効性ある歯科健診の実施などは、これからの健康長寿社会の実現にとって大きな意味を持つものです。歯科医療も一つの大きな柱に据えて、健康・医療戦略の未来を描いてまいります。

最後に、東京都歯科医師連盟のますますの発展と、会員の皆さまのご多幸ご健勝をお祈りいたします。

## ご 祝 辞

東京都議会自由民主党 幹事長

山 崎 一 輝



東京都歯科医師連盟創立70周年の節目を迎えられましたことに対し、心よりお祝い申し上げます。

貴連盟が、日頃より生涯にわたる地域歯科保健活動を通じ、都民の健康増進に多大な貢献をされてこられたことに対し、感謝と御礼を申し上げます。

また、大越会長をはじめ、70年の輝かしい歴史を築いてこられた歴代の役員の皆様の功績にあらためて敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症は、未だ収束の途は見えず、都民生活や東京の経済、産業に未曾有の影響を及ぼし、誰もが今まで経験したこともない脅威に晒されておりますが、都民一人一人、東京の経済を支える各事業者がその苦悩を克服していかなければなりません。

歯科診療の環境においても、令和2年4月に発出された緊急事態宣言以後、増大する診療コストと診療報酬の激減による経営状況の悪化、感染防止策を行うための設備投資に対する財政的支援や衛生用品の確保など、診療環境が一変している状況について、ご報告いただき、支援に対する要望もいただきました。

我が党は、いただいたご要望に対し、コロナ禍における財政支援等を強力に進めるよう、再三にわたり国および東京都に対し要望してまいりました。

これからも、コロナ収束に向け、あらゆる努力を重ねてまいります。

さて、東京都の高齢者の人口増加数は、団塊の世代が後期高齢者になる令和7年には全国1位と推計され、それとともに高齢者単独世帯や高齢者夫婦世帯も増加する一方、医療や介護が必要な認知症の人など、地域で支える必要がある高齢者の増加も見込まれます。

人生100年時代と言われておりますが、自立して健康で元気に生活していくためには、医療や介護とともに口腔ケアの重要性がますます高まっています。

都では、平成30年に「東京都保健医療計画」の改定と合わせ、都民がいつまでもおいしく食べ、笑顔で人生を過ごすことができるよう、都民の目指す姿を明らかにするとともに、ライフステージ等の特徴に応じた指標と取組の方向性を示した「東京都歯科保健推進計画 いい歯東京」を策定し、都の取組みの方向性と目指すべき指標を示しました。

我が党は、今後も東京都歯科医師連盟との協力体制を強め、周術期口腔ケアや在宅歯科医療、高齢者への口腔機能維持・向上や認知症対策、オーラルフレイル予防、介護予防といった様々な歯科保健に関する事業を応援してまいります。

最後に、東京都歯科医師連盟の役員、会員の皆様方が、今後も希望に満ち溢れ、さらなる飛躍を遂げられることを心より御祈念申し上げ、東京都議会自由民主党を代表してお祝いの御挨拶とさせていただきます。

## ご 祝 辞

参議院議員

島 村 大



東京都歯科医師連盟創立70周年、誠におめでとうございます。

長きにわたり地域の歯科医療に尽力されてきた皆様に、心より敬意を表します。また、会員の先生方におかれましては、平素より私の政治活動に対し格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の状況下、歯科界に携わる皆様、とりわけ東京都の先生方は大変なご負担を強いられていることと認識しております。

国政においても、昨年につき未だ新型コロナウイルス対応一色となっています。その中心は、直接間接を問わず新型コロナウイルス対応で大きな影響を受けている医療機関への支援です。歯科診療所を含め、多くの医療機関は感染防止対策に追われ、受診控えの影響もあって厳しい経営を余儀なくされています。医療従事者の方々が疲弊する中、苦しい状況にある医療の現場をいかに支え、その機能を維持していくかが社会的な課題として広く認識され、政府としても重点的に医療機関への支援を図ってきました。これまでに、診療報酬の引き上げ、医療・福祉事業者への資金繰り支援、医療・介護・福祉に従事する方々への慰労金、経営補填の意味合いの感染拡大防止支援金の支給などが実施されています。私も歯科医師の国会議員として、現場に即した制度となるよう力を尽くしてきたところで

す。一方、私はこのコロナ禍において歯科が役に立てる場面も模索してきました。感染拡大に伴い急増したPCR検査のニーズに応えるべく、歯科医師が鼻腔または唾液の検体を採取することが認められたのもその一つです。対応に当たられている先生方に改めて感謝申し上げます。

さて、桜の開花を心待ちにする現在においても、残念ながら新型コロナウイルス感染症の終息は見えていません。今、われわれ歯科医師に求められていることは、感染拡大防止策を徹底した上で診療を継続し、国民の皆様の健康を守ることです。私は、医療人として、東京都歯科医師連盟の会員として、誇りをもって今後もこの事態に真摯に立ち向かう所存です。どうぞ引き続き変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、大越会長を中心とする東京都歯科医師連盟の今後ますますのご発展をお祈りし、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

# ご 祝 辞

参議院議員

山 田 宏



創立70周年を心からお慶び申し上げますとともに、長い歴史を途切れることなく紡いで来られた歴代会長や役員、そして会員の皆様のご努力に改めて敬意を表します。

70年前の昭和26（1951）年は、敗戦による占領を終了させ、わが国の独立回復を謳ったサンフランシスコ講和条約締結の年でした。以後わが国は、経済復興、高度経済成長、ドルショックと石油ショックによる経済低迷を経てバブル。そしてバブル崩壊後は「失われた30年」と言われる経済停滞を経験してきました。また去年は武漢発のコロナ禍で世界中が大打撃を受け、戦後の「アメリカによる平和」は終焉に向かい、世界は「乱世」とも言うべき「歴史の分岐点」に入りました。

一方、昭和26（1951）年に男性60.8才、女性64.9才だった平均寿命は、2019年には男性81.4才、女性87.5才となり、わが国は世界トップクラスの長寿国となりました。他方1951年に214万だった出生数は1974年を境に減少が続き、2020年には85万人を下回るほど落ち込み、これまでの医療や年金制度そのものの維持すら困難になりつつあります。わが国を70年間支えてきた社会保険制度も「歴史の分岐点」の中にあります。

つまり、戦後長く慣れ親しんできた安全保障と社会保障という、国民の安全安心のための二つの保障が「歴史の分岐点」を迎えているのです。ですから私たちは今、たとえ小さくとも新たな一步に挑戦し続けていく必要があります。その意味では70年前の連盟創設時と同じ状況であり、当時の苦労と工夫を重ねて新たな時代に挑んでいった諸先輩の気概を反芻し、「私たちもできるはず」と自信をもって新たな時代を切り拓いていかなければなりません。

私の夢は、人類の夢でもある「全国民が天寿まで健康でいられる国」を創り、世界の少子高齢社会の先頭を行くわが国が新しい時代の「世界モデル」になることです。そのためには、あらゆる分野において新たな発想で研究開発を進めなければなりません。そして私は「口腔の健康が全身の健康につながる」歯科口腔にこそ「私の夢・日本の夢」達成の大きな鍵があるとの信念で、今後も皆さんと一緒に全力で歯科の新しい未来を拓いていく覚悟です。

東京都歯科医師連盟の一層の飛躍と皆様のご発展を心より祈念いたします。